

大地動乱の時代

次は、敦賀・若狭の原発か!

9・8 緊急講演会 (福井県越前市) に ご参加下さい

越前市 山崎隆敏

ご無沙汰しています。昨夏、市議選に落選し、つい先日まで世捨て人気分でした山崎です。

最近、周辺でいやな動きが目立ちます。自然災害に対する備えを強化している自治体の動きに合わせて、住民の自発的な活動も活発になっています。

越前市では、防災組織を全地区に立ち上げるということで、松下政経塾あがり¹の市長はがぜん張り切っています。私は区長アンケートで、²「わずか130戸の集落内には10人もの若い自警隊員がおり、別に5名の自警消防団員もいるから、それ以上の組織は必要ない」と答えておいたのですが、小さな集落の区長の声などは無視されたようです。とくに私の不老町³では、地震災害しか考えられません。

また、区長たちの集まりで、防災訓練が議題にのぼりました。何の災害かを特定せずに避難訓練するのだそうです。そして、来た人の名をチェックするのだといいます。もちろん私は、災害によって住民の対応も変わるのだから、何の災害かを想定せずにただ避難行動をおこなっても意味があるとは思えない。それに、一人ひとりをチェックするのは止めてほしいと異議を唱えました。早朝のサイレン吹鳴訓練 訓練といえるのか、何の意味があるのかよくわからない訓練 も何回もありました。事情がわからない近所の人たちは玄関先で不安げな顔をしていました。私は、訓練ということがわかっていたので布団に戻りましたが、何とも不快な気分でした。災害が起きてからの避難計画の前にすべきことがたくさんあると私は思います。

真の地震防災は、たとえば建物の耐震補強を促進させることです。行政がなすべきなのは、人々を大量動員する大がかりで目立つ避難訓練よりも、民家の耐震補強を啓発する活動のほうだと思えます。しかし、防災、防災とかまびすしく言う自治体も、住民も災害ボランティアの人たちも含め、原発震災をまったく気にか



けていません。福井県で地震を想定した避難訓練をおこなうなら、「原発震災」を第一に想定すべきです。

先日の、和紙の里夏祭り⁴で、五箇(和紙の産地の5つの集落)区長会会長の立場で主催者として市長の前に挨拶しなければなりません。こんな機会は今二度とない、最後のことから自分にとって今一番大事だと思ふことを話そうと考えました。

「地震と原発」のことです。

しかし、当日の準備の間に色んな人の顔を見て、やはりやめておこうと思いました。楽しい祭りのはじめにこんなことを話しても誰も耳を傾けないだろう、ヒンシュクだけだと考えたからです。

でも、市長の顔を見て、やはり話してしまいました。昨年、市の防災計画書から原発事故災害のページをはずし、ヨウ素剤も撤去してしまったことを思い出したからです。地球温暖化で台風の数が増えていること、威力も強くなっていること。それに、日本列島は地震の活動期に入り、日本列島が揺れつづけ、各地で深刻な被害を及ぼし続けるだろうこと。そして、原発の耐震性にも疑問が出てきた。私たちは、不安な時代を生きている・・・と。(国民保護計画で原発のゲリラ攻撃・放射能汚染事故を想定しておきながら、越前市は市の防災計画を昨年改定し、1ページあった原子力災害の項目をはずしてしまいました。原発事故対策の一元的責任は国と県にあるという理由です。阪神・淡路大震

災のあと、原発事故を憂う世論の影響もあり、防災計画の中に組み入れられたものですが、早い幕切れでした。やはり、私たち運動世論の力が弱くなっているからではないかと思います)

ところで、今回の新潟県中越沖地震を受けて、来る9月8日(土) 昼は武生市、夜は鯖江市で、長沢啓行さんの緊急講演会を開催します。

「原発の危険性はもう十分わかっている。」地震のことも今回の柏崎刈羽のことでわかった。」と考える人も多いただろう。原発トラブルに食傷気味の福井の人たちに講演会開催を呼びかけても集まらないのではないかと、と足踏みもしました。

でも、相変わらず、たとえ参加者が少数だったとしても、「この活断層群がM7.3以上の地震を起こす。原発のこの部分が危ないのです。」と問題点を参加者が具体的に理解し、その認識を他者に伝えてゆくことができるようにしておきたい。

「とは言っても、1/3の電気を原発でまかなっているから、何しろ世界は原子カルネッサンス」とい声にも、笑いながら黙ってごまかさず、きちんと反論できるように勉強しておく、そういう人が一人でも多くなるように尽くすことが自分の役目であろうと、気を取り直して講演会を準備することしました。

今回は、講演だけを聴いて帰るのではなく、原発に関して自分は常々こう思っている」とか、「こういういい話もある」とか、「こんな風にして世論を広げていこう」とか、参加者同士でそういう話ができる時間を多く取りたいとも考えています。

最近では原発の問題について皆でまじめに論じ合う機会もなくなっているのに、長沢さんも含めて、参加者が「皆で、もう一息頑張ろう」と励ましあいたいのです。地震と原発の問題を心配している人が増えているという話もあちこちでよく耳にしています。

長い間、原発の運動を続けていると、以前よりは世論の理解が進んだようであるが運動の勢いは高まらず、人々の心もうつろい易いことがわかって、投げやりな気持ちにさせられることは多いのですが、大衆運動の力で政



緊急講演会のお知らせ

日時：2007年9月8日(土)

会場：昼2時～ 越前市福祉健康センター
特別会議室(JR 武生 駅前)

夜7時～ アイアイ鯖江・健康福祉センター
(鯖江市 平和堂 南側)

講師：長沢啓行・大阪府立大学工学部教授

演題：原発は直下地震に耐えられるか

(質問の時間をたくさんとっています)

『私たちに何ができるか』

(自由討議と提案をおこないます)

主催：若狭連帯行動ネットワーク原発震災を憂慮する丹南市民の会(準備会)

参加費：500円 原発に賛成の方、反対の方、中立の方も、気兼ねなくおいでください。

策が大転換するとい可能性もあるので、それを信じなければと思います。

現に、参院選での自民党大敗の結果、安倍晋三氏の広島での「憲法の規定を遵守する」発言(直後の裁判に何も影響を与えなかったという問題はありますが)、政治資金規正法の見直し」発言などもありました。権力も以外にもろいといふか、大衆の反応をものすごく気にしているらしいということが、私たち皆に丸見えになってしまいました。

この日本の政治のいい加減さについては怖い面もありますが、民衆が理念と自信を失わずに口コミで運動を広げてゆけば、なんとかなるのではないかとということが実感されました。そのことは今回の選挙の大収穫だったと思います。民主党にしても、現在の原発政策は落第点ですが、世論の声が広がれば、転換の可能性は大です。

今回は実際に起きた地震なので、これから起きることを「想像」するのではなく、「現実を見る」ことができるため、わかりやすく話せると思う。」内容は低くはないが、具体例で示せるのでやりやすいと思う」と長沢さんからメールをいただいています。

できるだけ多くの家庭にチラシを新聞折り込みしたいと思っています。皆さんに甘えてしまって申し訳ありませんが、新聞折込基金のカンパをよろしく願います。